

# 成長につなぐ

— 事例17 ゴールズ&169ターゲット

95

## 理研計器

理研計器は、本社（東京都板橋区）や主力の生産センター（埼玉県春日部市）など、高圧電力を使う国内全5拠点を再生可能エネルギー由来の電力に切り替えた。国内全拠



30年度までに国内全拠点を排出するCO<sub>2</sub>を20年度比で94%減の300トにする（主力拠点の開発センター④と生産センター〈埼玉県春日部市〉、理研計器提供）

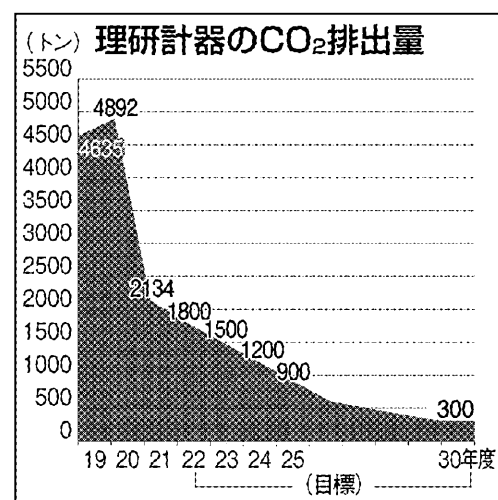
点で排出する二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を、2030年度までに20年度比で約94%減の300トを目標に削減を進める。産業用ガス検知警報器大手メーカーとして社会貢献の姿勢を打ち出す。

## 高圧電力施設を再エネに転換

従来契約の更新が迫っていた本社です。21年4月に導入した。同年7月に主力工場の生産センターと隣接する開発センター（埼玉県春日部市）、同年11月には神奈川営業所・横浜サービスステーション（横浜市港北区）などに拡大した。

結果、21年中に高圧電力を使う5施設は全て再エネに切り替えた。40ほどの低電圧拠点にも22年度より順次拡大する方針だ。ロシア・ウクライナ問題などの影響で電気代が高くなっているが、コストを注視しつつ、計画は実行していく予定。

また、製品の軽量化・小型化で資源の効率利用を強化するなど、各部門の代表者が集まり「いま何ができるのか」を洗い出した。再エネ導入はこの中の一案だった。



同社の二酸化炭素排出量の約9割は電力由来のため、高圧電力